

埼玉県・・・個別の教育支援計画＝教育支援プランA

個別の指導計画＝教育支援プランB

<<作成について>>

内容に変更があったら、随時書き足していく。

プランBの「指導に結びつく実態」を先に作成すると、児童生徒の課題やニーズが見えてくるため、プランAの「教育的ニーズ」が作成しやすい。

<<活用について>>

プランAとプランBは、面談の時に資料として保護者に提示して、内容を確認する。

進級、進学の際には、児童生徒の引継ぎ資料として活用する。また、交流の際には情報提供の資料として活用できる。

教育支援プランA（個別の教育支援計画）

ふりがな		性別	生年月日	取扱注意
本人氏名		住所		
ふりがな		TEL		
保護者氏名				
対象期間	平成 年 月 日（ ）から平成 年 月 日（ ）まで3年間			
作成年度	学校名	校長名	学部・学年・組	記入者名
1				
2				
3				
特別な教育的 ニーズ	当初立てた計画から変更があった場合、（追加）の欄に書き足す。※記入年月日を入れる。			
（追加）				
本人・保護者の 願い				
合理的配慮の 実施内容				
（追加）				
教育機関の 支援	目標・機関名	支援内容		評価
	所属校			
	（追加）			
	就学支援委員会の 助言内容			
	（追加）			
関係機関の 支援	支援籍、交流及 び共同学習			
	（追加）			
	機関名	支援内容		
	医療・保健			
	（追加）			
本人の プロフィール	福祉・労働			
	（追加）			
	家庭・地域			
	（追加）			
	障害の状況	障害名、手帳の種類（取得年月日）、発作服薬の状況等を記入する。		
これまでの 支援内容	生育歴 療育歴 教育歴	生育歴・療育歴・教育歴は、できるだけ細かく期間も記入する。		
	相談歴 諸検査	検査については、実施日、実施機関も記入する。		
	その他			

教育支援プランB（個別の指導計画）

本人氏名		学校名		取扱注意
学部・学年・組		記入者名		
指導方針				
(追加)				
指導に結びつく実態				
1 健康の保持 (日常生活面、健康面など)	プランAの「特別な教育的ニーズ」及び、プランBの「指導に結びつく実態」については、肯定的な表現とする。	児童生徒の変容は、(追加)欄に書き足す。		
(追加)				
2 心理的な安定 (情緒面、状況の理解など)				
(追加)				
3 人間関係の形成 (人とのかかわり、集団への参加など)				
(追加)				
4 環境の把握 (感覚の活用、認知面、学習面など)				
(追加)				
5 身体の動き (運動・動作、作業面など)	学期ごとに評価を行い、記入する。			
(追加)				
6 コミュニケーション (意思の伝達、言語の形成など)				
(追加)				
7 その他 (性格、行動特徴、興味関心など)				
(追加)				
(追加)				
教科・領域等	学習課題・目標	指導内容・方法・手だて	評価	

「目標」は行動を客観的に評価しやすい記述が望ましい。
 ×「楽しく」「楽しむ」「自分なりに」
 ↓
 何を以て、児童生徒が「楽しい」と感じているのか。明確な判断基準を示すようにする。